

1 8月9日からの大雨災害

台風第9号から変わった低気圧や前線の影響で8月9日0時頃から雨が降り始め、9日夜のはじめ頃から10日朝にかけて激しい雨となり、10日午前中に、十和田市、野辺地町、七戸町、横浜町、東北町及び六ヶ所村に大雨警報が、七戸町と東北町には洪水警報も発表された。

この大雨により七戸町、東北町にまたがる高瀬川が氾濫し、水稻で冠水・浸水害が発生したほか、両町各地で農作物の被害が発生した（詳細は、V気象経過と農作物の生育状況8気象災害）。



牧草ロールが流出し、浸水・腐敗により全量廃棄（七戸町）



高瀬川が氾濫し、基盤整備工事中のほ場が冠水（東北町）

I 写真で見る今年度のトピックス

2 スマート農機の普及拡大

上北地域は県内有数の露地野菜産地で、ながいも、にんにく、ごぼう、だいこんなどの生産が盛んである。しかし、農業者の高齢化や農業就業人口の急激な減少、1経営体当たり経営面積の拡大により、労働力不足が深刻化している。この対策として上北地域県民局では自動操舵トラクタを中心としたスマート農機の導入を進めていくこととし、今年度から重点事業に位置づけて取り組んだ。

今年度は、推進体制として「上北地域スマート農機普及推進研究会」を設置し、具体的な取組の方向性として「上北地域スマート農機普及推進方策」を策定した。

また、女性農業者や若手農業者等を対象として、自動操舵トラクタによる各種作業を体験してもらう研修会を開催したほか、自動操舵トラクタの活用ビデオマニュアルの作成に取り組んだ。



上北地域スマート農機普及推進研究会



自動操舵トラクタ活用研修会

3 新たなステージを目指し「かみきた産直」の新たな取組を支援

上北地域には産直施設が36施設あり、年間販売額は県内トップクラスである。

上北地域県民局では、産直に取り組む農業者の所得向上を図るため、食料品店が近くにない地域への移動販売や、官公庁・企業を対象とした事前注文・配達による販売、地場産品に新たな付加価値を加えた商品の販売といった、産直施設の販売力強化に向けた新たな取組を支援している。

今年度は、(株)産直とわだ、三沢市近郊やさい生産組合、なたねの会に産直ビジネスモデル実証に取り組んでいただいた。

今後は、これらの実証で得られた成果を、管内の他の産直施設へ広めていくこととしている。



事前注文・配達による販売



地元産品を使った「よこはま揚げ」

4 「共助・共存の農山漁村づくり」モデル集落の取組支援

県では、モデル集落を選定し、共助・共存の農山漁村づくりに向けた取組を支援している。上北地域県民局では昨年度から十和田市一本松集落をモデル集落に選定し、取組の支援を行っている。

今年度は、集落内の幅広い年代が集い、地域の課題や取組を話し合うきっかけにするため、地域イベントとして「ゴニンカン大会」を開催したほか、地域全体での見守り活動を兼ねた高齢者サロンの毎週の開催に向け、その資金確保のため彼岸だんごの販売も行った。



彼岸だんごパッケージ



ゴニンカン大会の様子

5 管内の4Hクラブの活動

上北地域には、上十地区4Hクラブ連絡協議会と三沢地区農村青少年クラブ連絡協議会の2つの4Hクラブがあり、プロジェクト活動を中心に様々な活動が行われてきた。

令和3年7月には、それまで4Hクラブの空白地帯となっていた十和田市及び七戸町に在住する青年農業者によって、新たに「十和田七戸4Hクラブ」が設立された。

4Hクラブが3クラブに増加したことを契機に4Hクラブが連携した活動を強化するため、令和4年2月に管内の3つの4Hクラブと六ヶ所村青年農業経営者協議会がプロジェクト合同発表会を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、発表会は残念ながら中止となった。

今後も、4Hクラブ活動の活性化や地域での仲間づくり、クラブ員の資質向上に向けた4Hクラブの活動を支援していく。



十和田七戸4Hクラブ設立総会



プロジェクト作業風景

6 大豆の収益性向上に向けた取組み

上北地域県民局では、年次変動の大きい転作大豆の収量を安定させ、経営体の収益を向上させるため、それぞれの大豆栽培技術改善策整理表の作成を支援し、各経営体ごとの減収要因を明らかにして、技術改善を支援した。その結果、病虫害防除薬剤や肥料の変更、作業時期の見直しなど、効果が高く、実行しやすい取組を選択できるようになり、収量の向上につながった。

さらに、近年全国的に発生が拡大しているダイズシストセンチュウが上北地域でも発生確認されているため、各経営体ごとの感染状況を調査し、その結果と対策について情報提供した。また、土壌分析結果に基づく適正施肥や省力化技術の実証ほを設置し、高品質安定生産と省力化の両立に向けた支援を行った。



省力化技術実証ほでの現地検討会

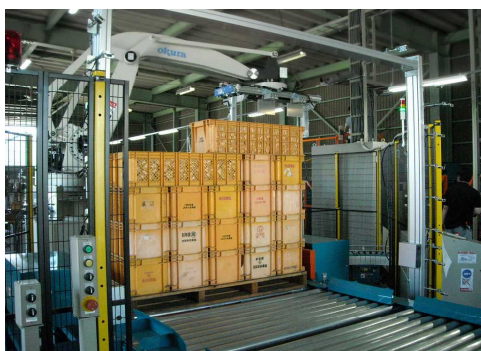


栽培技術改善策整理表の作成支援

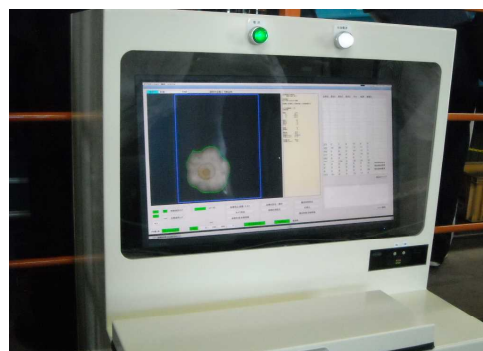
7 日本初のA Iを活用したにんにく選別施設の導入

J Aゆうき青森では、令和2年度青森県県産野菜等供給力強靱化対策事業を活用してカメラとA I（人工知能）を利用した、にんにく選果選別設備を導入した。

1日当たりの処理量が6.8t（350コンテナ）と現状の2.5倍以上に向上し、作業人員を10名から3名に削減することが可能となった。また、選別数量の適時把握が可能となるため、この情報をもとに事前商談及び安定販売を進めることができるほか、選果作業の余剰労働力を活かし、市場からの要望の強い個包装出荷を増加させることができるなど、有利販売につながる施設となっている。



ロボットアームによる荷受・積込



A Iによる選別